

令和 4 年 6 月 16 日現在

機関番号：23804

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00933

研究課題名（和文）遠州地域に伝わる「おこない」系祭祀芸能の総合的研究

研究課題名（英文）A Multidisciplinary Study of the OKONAI Festival in Enshyu District.

研究代表者

西田 かほる（NISHIDA, Kaoru）

静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授

研究者番号：50265576

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：遠州地域に伝わる「おこない」系祭祀群のうち、主に川名ひよんどりと寺野ひよんどりを対象として、調査を行った。従来の民俗芸能研究のみならず、多面的な研究を試みた。祭祀の詞章を分析することで、同地域における中世からの祭祀形態を確認できたほか、寺野地区の近代初期史料から、ひよんどり祭祀の担い手たちが、複数の教派神道との関りを持っていたことも確認でき、祭祀の担い手の近代への転換を検討する足がかりができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

遠州地域に伝わる「おこない」を、歴史学を中心に、芸能史、民俗芸能研究、口承文芸研究、日本伝統音楽研究などから、多面的に検討しようという試みであった。遠州のおこないが、南北朝期に遡りうる芸能伝承が含まれていることが確認できたことや、三遠南信のおこないの「翁」が大和猿楽の「翁」の源流にあたる古い翁芸の様式を伝えること、日本の芸能が展開・発展していく過程は中央の芸能だけでは解読できず、三遠南信の「おこない」を対置することで明らかになることを示したことも学術的な意義がある。

研究成果の概要（英文）：As two of the "Okonai" type rituals from the Enshu area, we conducted a research mainly on Kawana Hiyondori and Terano Hiyondori. We attempted to conduct a multifaceted study, including traditional folk performing arts research. By analyzing the ritual texts, we were able to clarify the medieval form of rituals in the area, and from the early modern archives in the Terano area, we were able to confirm that the successors of the Hiyondori rituals were involved with multiple sects of Shintoism, laying the groundwork for examining the shift of ritual successors to the modern era.

研究分野：日本近世史

キーワード：遠州 おこない 祭祀芸能

1 研究開始当初の背景

三遠南信地域（愛知・静岡・長野の県境地帯）は、民俗芸能の宝庫として知られる。その中でも、遠州地域に伝わる「おこない」（修正会）系祭祀群（懐山おくない・神沢おくない・西浦田楽・寺野ひよんどり・川名ひよんどり・息神社の田遊びなど）と、主に三河や南信州に分布する「神楽」系祭祀群（奥三河の花祭り・坂部の冬祭り・遠山の霜月祭りなど）は、その主要なものである。

当該地域の「神楽」系祭祀群の調査・研究は、1930年の早川孝太郎『花祭』にはじまり、以来多くの研究が蓄積されてきた。近年では、『豊根村誌』（1999年）、『愛知県史』（2005年）、『東栄町誌』（2007年）などの自治体史や名古屋大学人類文化遺産テクスト学研究センターによる花祭りアーカイヴスなどによって、地域史料の悉皆調査が行われ、新たな研究の展開がみられる。

遠州に分布する「おこない」系祭祀の調査・研究は、戦中の新井恒易『農と田遊びの研究』にはじまる。1970年代に入ると、黒田日出男「田遊び論ノート」や萩原龍夫「田遊びと中世村落」といった中世史研究者の関心を得て、「おこない」への歴史的・芸能史的検討が加えられ、詞章を分析することにより祭祀が在地社会のあり方を色濃く反映するものであることが明らかになった。『引佐町史料 第十集 寺野ひよんどり記録他』（1978年）や、『静岡県史』（1989年）、『引佐町史』（1995年）が刊行され、詞章の紹介や民俗学的な考察は深まったものの、「神楽」系祭祀群に比べ調査・研究は活発になっていない。最新の成果は山路興造「田遊び論の構想」（1999年）である。

1994年に当該地域の「おこない」が「遠江のひよんどりとおくない」として国の重要文化財に指定されると、「遠江のひよんどりとおくない保存連絡協議会（現在、浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会に改組）」が発足し、保存団体をはじめとする市民の関心が高まった。その一方で、地域の過疎化や祭の担い手の高齢化により、その存立自体が危ぶまれる地区も多い。早急に「おこない」系祭祀の全体を調査・研究する必要があった。

このような状況の中、山本ひろ子（研究分担者）と宮嶋隆輔（研究協力者）は、当該地域の保存団体と連携し、『懐山おくない詞章集』（懐山おくない保存会編、翻刻・校注宮嶋隆輔、2015年）、『寺野ひよんどり詞章集』（寺野ひよんどり保存会編、監修山本ひろ子・校注宮嶋隆輔、2016年）、『息神社田遊祭詞章集』（息神社田遊会保存会編集委員会編、校注宮嶋隆輔、2017年）、『くま神澤おくない詞章集・手引き』（神澤おくない継承同好会編、校注宮嶋隆輔、2018年）を次々と刊行していた。山本ひろ子は天台寺院の常行堂修正会の研究を長期にわたり継続しており、三河地域の神楽を調査・研究するなかで、おこない文書を用いた論文を多数執筆していた。山本らの研究で、おこない祭祀の全体像を明らかにするには、地方大寺社の修正会における田遊びの成立と村落の祭祀への定着、近世・近代における祭祀の変容といった歴史学的考察を中心に、芸能史の知識を用いた時代考証や、在地伝承の比較検討などを総合的に行う必要性が明らかにな

っていた。そもそも「おこない」系祭祀研究が盛んとならなかったのは、祭祀の複雑さが原因でもあった。そこで歴史学（西田かほる・研究代表者）、口承文芸研究（二本松康宏・研究分担者）、日本伝統音楽研究（奥中康人・研究分担者）、そして芸能史・民俗芸能研究（山本ひろ子、宮嶋隆輔）といった諸領域を横断し、「おこない」祭祀を多角的に分析することを構想した。

2 研究の目的

本研究の目的は、遠州地域のおこない系祭祀のもつ歴史的・文化的価値を学際的に提起することである。そのため、まず遠州の芸能に関わる関連史料を含め、史料の悉皆調査をおこなう。おこない関連史料のみならず、当該地域全体の史料の調査・整理を行い、研究に資することとしたい。さらに歴史学を中心として、芸能史、民俗学、民俗芸能研究、口承文芸研究、日本伝統音楽研究の専門家を研究分担者・研究協力者とするにより、多面的な要素をもつおこないを、総合的、精緻に研究する。

3 研究の方法

（１）おこない関連史料の調査。当該地域の文書の全体像を知るための所在調査と、発見した文書の調査・翻刻・アーカイブ化の作業を行う。（２）修正会の地方伝播と展開にかかわる調査。修正会が地方に伝播し、独自の展開を遂げる過程を分析することにより、中世荘園の性格や村落社会における祭祀の実態と意義を明らかにする。また畿内を中心とした修正会研究や仏教法会研究に、地方の修正会という新しい視点を提示する。（３）伝承者への聞き取り調査と音楽的研究。祭りの起源伝承、関連する習俗・禁忌、年中行事との関わりなどについて、聞き取り調査の成果をもとに民俗学的、伝承論的考察を加える。加えて、古風な音節やリズムをもつおこないの音楽的要素について、音楽学の見地から検討を加える。（４）おこないの芸能史的研究。おこないに伝承される多様な芸能の内実を読み解き、日本芸能史におけるその位置付けを提示する。さらに日本の芸能の歴史的展開における地方の修正会の役割を明らかにする。

4 研究成果

遠州おこないは複数地域に及ぶため、川名（浜松市引佐町川名）と寺野（浜松市北区引佐町渋川）を主な対象地域として調査を実施した。

（１）遠州おこないに関わる史料調査。寺野地区においては「寺野集落祢宜所蔵文書」調査と「寺野ひよんどり史料」を収集した。川名地区においては、地区住民が蒐集した歴史資料情報をデジタルデータで収集した。そのほか、現在途絶している狩宿（浜松市北区引佐町）のおこない詞章の調査を行った。

(2) 全国のおこないに関連する調査。遠州おこない成立の上で重要な意味を持つ鳳来寺(愛知県新城市)の田楽をはじめ、法多山尊永寺(静岡県袋井市)の田遊びについても、見学調査を行った。

そのほか、奈良県内を中心に、十津川(奈良県吉野郡十津川村武蔵地区)の盆踊りと同地域の正月行事、野迫川村などおこない資料の蒐集をはかり、東大寺二月堂修二会(奈良市雑司町)の見学も実施している。さらに、広島県では、安芸十二神祇・安刀神楽(広島県安佐南区中森八幡神社)の荒平舞と將軍舞を調査したほか、大山供養田植(広島県東城町塩原)の牛供養・田植え歌を蒐集した。岩手県においては、毛越寺(岩手県平泉)常行堂・延年や蘇民将来祭について、それぞれ見学と聞き取りを行った。

(3) 聞き取りと採譜調査。川名地区において聞き取りを実施し、採譜については川名・寺野両ひよんどりにおいて実施した。

(4) 報告会の開催。研究成果の地域還元として、「おこない」の地元において報告会を開催した。2020年に実施した中間報告会(浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会主催、於：引佐協働センター)では、山本ひろ子「遠州「おこない」の展望」、二本松康弘「伝統芸能を継承してゆくことの尊さ 北遠での民話探訪から」、宮嶋隆輔「遠州おこないの世界 調査・研究を通して見えてきたもの」報告のほか、神沢おくない継承同好会による「順の舞・鉾の舞 五穀豊穰と疫病退散を願って」が実演された。本研究のまとめとして、2021年に「遠江のひよんどりとおくないフォーラム」と題する報告会を開催した(浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会・浜松市主催、於：引佐多目的研修センター)。宮嶋隆輔「おくない・ひよんどりの「翁」の魅力と価値」、山本ひろ子「遠江の「おこない」研究は今!」、二本松康弘「研究を終えて」のほか、櫻井弘人「天竜川水系の「おこない」における聖火と聖水」報告と寺野ひよんどり保存会による「翁語りパフォーマンス」実演を実施した。この他、「遠州・三遠南信の風土まなびの会」(2021年12月、静岡文化芸術大学文化芸術研究センター主催)では、西田かほる・宮嶋隆輔が「「ひよんどり」が伝えるもの」として、遠江のおこないと研究の概要について報告した。

(5) 成果刊行物。個別論文以外の刊行物としては、次の2件である。2020年1月に『川名のひよんどり 遠江・正月の祭祀と芸能』(編集・執筆宮嶋隆輔、川名ひよんどり保存会発行)を刊行した。2021年11月には、収集した寺野地区のおこない関係史料を翻刻し解説を付した『引佐町寺野芸能資料集』を発行した。

これら(1)~(5)に基づく研究成果内容と課題は次のとおりである。史料調査については、当初予定していた悉皆調査はできなかったものの、寺野祢宜所蔵文書と寺野ひよんどり史料を蒐集できたことは、大きな成果であった。祢宜家文書のうち、「八幡大菩薩祭礼ひき目のひぼとき」詞章は、各地の狩獵神事(シシウチ・シカウチ)とのつながりを示すとともに、おこないや神楽とも共通する部分を含み、今後一帯の祭祀・芸能を研究する上で有益な史料であった。また寺野ひよんどり史料にある「万歳」詞章は、

新井恒易が1960年代に採録した際に演じられた「三河万歳ふうのもの」とは異なり、尾張万歳の「法華経万歳」系統の詞章であることが明らかになった。五時教などの中世的要素を多分に含む万歳詞章の所在は、三河・古戸、駿河・滝沢に伝わる「千万歳」（千秋万歳の訛伝と思われる）と並び、遠江・駿河・三河のおこないにおける万歳の受容と展開を知るうえで重要な史料となる。宮嶋隆輔は、これらおこない詞章の解読を通して、三遠南信のおこないの「翁」が大和猿楽の「翁」の源流にあたる古い翁芸の様式を伝えることを示した。また、遠州のおこないには南北朝期に遡りうる芸能伝承が含まれていることを「神歌」や「翁」を通して論じた。大和猿楽の「翁」を例に、日本の芸能が展開・発展していく過程は中央の芸能だけでは解読できず、三遠南信の「おこない」を対置することで明らかになることを示したことも大きな成果である。

修正会の地方伝播と展開にかかわる成果としては、元弘3（1333）年の笠原荘高松社（御前崎市）の修正会における「田遊び」と「御百姓」社参を再検討し、正応2（1289）年には三ヶ日大福寺（浜松市）で衆徒と殿原・所司沙汰人らを核とする祭祀組織がすでに形成されていたことや、浜名神戸を介した伊勢神宮との密接な関係など、遠江における芸能伝播とその背景について検討した。中世荘園における祭祀組織の形成については、黒田・萩原・山路氏らの先行研究を受け、宮嶋隆輔が川名ひよんどり保存会講演「遠江のおくない・ひよんどり再考 川名ひよんどりを中心に」（2019年11月）において問題提起を行った。山間集落の中小寺社で呪師・猿楽系祭祀が発達した山城国綴喜郡の禅定寺や高神社の法堅猿楽記録（文永年間以降）を検討し、遠江のおこない祭祀の演目内容から呪師・猿楽系芸能者が関与したことや、法師・殿原・女房以下が祭祀を担ったことなど、高神社との共通点を見出した。在地の神仏をめぐる祭祀・饗宴が、殿原層を中核とする村落的な座・講の結束の強化を意図したことも両者に共通しており、郷村における呪師・猿楽系祭祀の成立を広汎な事例から考察することができた。

また、「寺野ひよんどり史料」には、近代の天理教、御岳教などの教本類や、神道丸山教の世話係任命状などが含まれていた。静岡県は丸山教が盛んに受容された地域であり、それが在地の芸能を担う者たちとどのように関わっていたのか、おこないの担い手の近代的転換を考える上で重要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 宮嶋隆輔	4. 巻 23
2. 論文標題 中世の職能民と芸能 地方の伝承から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 屋根裏通信	6. 最初と最後の頁 27 - 32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二本松康宏	4. 巻 17
2. 論文標題 そこに暮らすことの尊さ 北遠での民話探訪から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 遠江・山と里の民俗	6. 最初と最後の頁 2-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮嶋隆輔	4. 巻 16
2. 論文標題 小神・仮面・呪物 陵王と雨乞いの面	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 屋根裏通信	6. 最初と最後の頁 17-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮嶋隆輔	4. 巻 17
2. 論文標題 小神・仮面・呪物 元興寺の鬼-中門の夜叉像	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 屋根裏通信	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮嶋隆輔	4. 巻 18
2. 論文標題 小神・仮面・呪物 呪物と宝蔵・箱	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 屋根裏通信	6. 最初と最後の頁 21-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮嶋隆輔	4. 巻 19
2. 論文標題 守宮神考 土曜会のまとめと展望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 屋根裏通信	6. 最初と最後の頁 25-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮嶋隆輔	4. 巻 17
2. 論文標題 遠州おこないの世界 調査・研究から見てきたもの	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 遠江・山と里の民俗	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本ひろ子	4. 巻 20
2. 論文標題 ガラス碗を思う つれづれ語り「浜松の面」(1)に寄せて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 屋根裏通信	6. 最初と最後の頁 23-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本ひろ子	4. 巻 1
2. 論文標題 執心の表象 早池峰神楽の「鐘巻」をめぐる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立劇場おきなわ芸能資料集 講座「執心鐘入をめぐる」	6. 最初と最後の頁 98-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西田かほる	4. 巻 21
2. 論文標題 近世遠江における親王由緒-木寺宮をめぐる-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 静岡文化芸術大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 243-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本ひろ子	4. 巻 9
2. 論文標題 正月三題-田作り/雑煮/追儺餅	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 屋根裏通信	6. 最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 二本松康宏
2. 発表標題 伝統芸能を継承してゆくことの尊さ 北遠での民話探訪から
3. 学会等名 遠州地域に伝わる「おこない」系祭祀芸能の総合的研究中間報告会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮嶋隆輔
2. 発表標題 中世日本の宗教芸能 神・鬼・仮面
3. 学会等名 A&ANSオンライン講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮嶋隆輔
2. 発表標題 鬼と鬼面の芸能史 仮面篇
3. 学会等名 A&ANSオンライン講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮嶋隆輔
2. 発表標題 守宮神と芸能 芸能史再考
3. 学会等名 成城寺小屋講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮嶋隆輔
2. 発表標題 遠州おこないの世界 調査・研究を通して見えてきたもの
3. 学会等名 遠州地域に伝わる「おこない」系祭祀芸能の総合的研究中間報告会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本ひろ子
2. 発表標題 中世阿蘇社の神事芸能
3. 学会等名 早稲田大学東洋哲学會第三十七回大会講演
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本ひろ子
2. 発表標題 遠州「おこない」の展望
3. 学会等名 遠州地域に伝わる「おこない」系祭祀芸能の総合的研究中間報告会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮嶋隆輔
2. 発表標題 遠江のおくない・ひよんどり再考 川名ひよんどりを中心に
3. 学会等名 川名ひよんどり保存会講演
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮嶋隆輔
2. 発表標題 能の舞台空間ができるまで 宗教芸能の視点から
3. 学会等名 和光大学現代人間学部現代社会学科特別講義
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮嶋隆輔
2. 発表標題 遠江のおくない・ひよんどりの伽藍護法をめぐって
3. 学会等名 成城寺小屋講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本ひろ子
2. 発表標題 柳田國男を読む [A] 昔話を味わい、考えるー
3. 学会等名 和光大学オープン・カレッジ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本ひろ子
2. 発表標題 柳田國男を読む [B] 伝説と民間行事
3. 学会等名 和光大学オープン・カレッジ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本ひろ子
2. 発表標題 執心の表象
3. 学会等名 国立劇場組踊上演300周年記念講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本ひろ子
2. 発表標題 「道成寺縁起」と「鐘巻」 龍女成仏の芸能的達成
3. 学会等名 成城寺小屋講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本ひろ子
2. 発表標題 大嘗祭と折口信夫の芸能論 [A] 大嘗祭と天皇の祭儀ー
3. 学会等名 和光大学オープン・カレッジ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山本ひろ子
2. 発表標題 大嘗祭と折口信夫の芸能論 [B] 大嘗祭と天皇の祭儀ー
3. 学会等名 和光大学オープン・カレッジ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西田かほる
2. 発表標題 遠江・駿河の民間宗教者ー陰陽師を中心に
3. 学会等名 賀茂真淵記念館カレッジ
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 山本ひろ子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 400
3. 書名 摩多羅神 われらいかなる縁ありて	

1. 著者名 宮嶋隆輔	4. 発行年 2021年
2. 出版社 遠州地域に伝わる「おこない」系祭祀芸能の総合的研究	5. 総ページ数 37
3. 書名 引佐町寺野芸能資料集	

1. 著者名 二本松康宏監修、小田ありさ・奥村宗明・澤田駿介編著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 160
3. 書名 春野山ふしぎな話	

1. 著者名 山本ひろ子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 34
3. 書名 「よみがえる中世の神事たちー備中吉備津宮の祭礼」『神楽の中世 宗教芸能の地平へ』	

1. 著者名 山本ひろ子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 23
3. 書名 「「鐘巻」のドラマトゥルギー 能と早池峰神楽をめぐって」『神楽の中世 宗教芸能の地平へ』	

1. 著者名 宮嶋隆輔	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 21
3. 書名 「祝師の芸能と神楽 備前一宮祭礼を中心に」『神楽の中世 宗教芸能の地平へ』	

1. 著者名 宮嶋隆輔	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 3
3. 書名 「おくない・ひよんどり 遠州の正月行事」『神楽の中世 宗教芸能の地平へ』	

1. 著者名 宮嶋隆輔編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 川名ひよんどり保存会	5. 総ページ数 31
3. 書名 川名のひよんどり - 遠江・正月の祭祀と芸能 -	

1. 著者名 山本ひろ子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団	5. 総ページ数 10
3. 書名 「執心の表象 早池峰神楽の「鐘巻」をめぐる」『国立劇場おきなわ芸能資料集 講座「執心鐘入りをめぐる」』	

1. 著者名 西田かほる	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 14
3. 書名 「多様な身分－巫女」『近世史講義』	

1. 著者名 二本松康宏監修 伊藤優華・藤井優・吉高里編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 150
3. 書名 春野のむかしばなし	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奥中 康人 (YASUTO OKUNAKA) (10448722)	静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授 (23804)	
研究分担者	二本松 康宏 (YASUHIRO NIOHNMATU) (90515925)	静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授 (23804)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	山本 ひろ子 (HIROKO YAMAMOTO) (90318709)	和光大学・表現学部・名誉教授 (32688)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協 力 者	宮嶋 隆輔 (MIYAJIMA RYUSUKE)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関